

臺灣鐵道の事業 社説

臺灣に於ける鐵道敷設の急にせざる可らざる次第は前號に述べたる如くにして其次第は何人も認むる所ならん彼の臺灣鐵道會社の計畫は此目的に出でたるものなれども目下の事情を聞くに謀算の資本金、豫備金の額に達せずして實際の着手慶東なかる可しと云ふ處地の現状彼の如くなる其上に金融社會の事情亦斯くて如くなる昨今の場合に無理もなき次第にして此處にては自から計畫を止むる外なる可し會社の存廢は孰に交渉中なりと云ふ其條件の果して聞く可さものなるを停止せしむるが如きは斷じて許さる所なり聞く所に據れば會社の創立員等は今後助成の條件に付き政府に就て姑く擋さ臺灣の統一と防備とは政府の任ず可否やは姑く擋さ臺灣の統一と防備とは政府の任ず可否所にして苟めにも年額に付す可らず然に其統一防備に第一の必要な鐵道の敷設にして空しく延引するふともあらんには萬一の場合に容易ならざる次第にあれば政府は如何なる方法を以てしても其速成を謀らざる可らず果して成業あるや否や當初政府が私設會社の願意を容れて鐵道の敷設を許可したるは財政の都合上、自から着手するを得ざるが爲めにして會社を任せたる其代りに利子の補給その他の特典を與へたるふとなれども夫れても尚ほ認定の資金を得る能はざるは畢竟時勢の然らしむる所にして餘儀なき次第なれば更らに會社を補助して事を成さしむるか然らざれば然然そ約束を取消し政府自から着手するの外なからし我輩は算ち政府の着手を望むのなれども事務の着手は第一、金との相談にして實際に金なけれども本銀行を始めとして郵船會社、日本鐵道、成績鐵道その他の諸會社に至るまで帝室にて株券を所有せらるゝ事會社甚だ少なからず（目下の銀行會社に就て帝室持株成を謀るも由から一法なる可し即ち半官半民の會社を受くるとも慶東なしとすれば政府は會社資本の足らざるふとにして別に怪しむに足らず實際に差支なけれども國府の會計に其不足の金額だけも支出するの餘裕なしとわれば是れ又實際に行はる可らず致方なき次第なれば我輩は是に於てか帝室に於て其株券を所有せらるゝ一事を以て最も適當の方法なる可しと認むるものなり或は帝室は猶々三百萬圓に過ぎず述も會社の株主を別にせらるしに足らずと云はんかなれども實際に日本銀行を始めとして郵船會社、日本鐵道、成績鐵道その他の諸會社に至るまで帝室にて株券を所有せらるゝ其株券三萬三千三百株不一株五十圓）新株四萬八千四百五十株（一株拂込額百五十四）、日本鐵道一萬三千六百八十七株（一株五十圓）新株二萬百七十五株（一株二十五圓）、郵船會社十株（一株拂込額百五十四）、日本鐵道一萬二千五百株（一株五十圓）及鐵道一萬八千四百株（一株五十圓）等をも當中には永久の財産として所有せらるゝ向もあらざれども其事務機關の趣旨に就てたるものと來益の諮詢せ候事よりしに其機關の效果か候す取扱事務の基礎を全うして利益を見出でて其株券の賣段も大に騰貴して拂込以上に

賣却せらるゝときは臺灣鐵道資本の不足を引受けらるゝが如き甚だ容易なる可し若しも帝室に於て株券所有とあれば一般の人氣自から引立ちて資本集めの便利を致し事業の成立は必ず疑ふ可らず自から獎勵の趣旨に協ふものと云ふ可し或は萬一事業失敗の場合には如何す可きやの掛念もあらんかなれども人爲の事業に萬全の成功は固より期す可らず失敗の場合には損するの外なけれども僅々何百萬圓の損失、帝室に於て掛念せらる可きに非ず臺灣の鐵道果して國家必要の事業にして之を獎勵す可きものと認められたんには現在の株券の一部分を賣却せられて其資本の不足額を引受けられる從來内地の鐵道同様、獎勵の目的を達せらるゝみと最も適當の處置なる可し臺灣の實際を見れば人口も多く物産も乏しからず眞實國家富源の地たるみると疑ふ可きに非ざれども其富源たると否とに拘はらず鐵道の敷設は統治上に軍事上に實際緊急の必要にして片時も猶豫す可きに非ず幸に帝室一層の恩助を得て事業速成の目的を達せしめんと希望に堪へざるなり

築港竣工後の横濱港は潮流の勢ひ緩慢となりし其他に種々の原因もあるべけれども追々泥砂沈澱の度を増し來り港の水深は時を経るに随ふて減じ行くふと明かなは左して懸念の色も見えず只商業會議所が港調查委員會を設けたる結果數百通の文書を諸會社若くは個人に發して其平生の所見、研究の材料等を寄せられた旨申述したるみどおりしも是すらポンの形式的に止まり百忙の中に一闇を窮みて其所説を書き送るほどの熱心家も出でず或は直接利害を感じるみど最も多く隨て所見少からざる向きにても今の會議所の能力を疑へば兎角黙して時機の至るを待つに若かずと云ふ有様にて過般居留地商業會議所が其所見を送りたる如きは誠に稀有の事例なりしなり

功後の横濱港は潮流
原因もあるべけれど

か殆んど十指を屈するものは悉く皆音に聞えたる炭山
なれば一坑の出炭毎日平均百五十噸完とするも千五百
噸を更に増加する勘定にして若松驛の繁忙想ひ見る可
し此形勢を觀来れば彼の慾心を起す者も亦一理あるが
如し况んや運賃の引上げは多分遠からず實施せらるべ
しと云ふに於てをや、運賃引上げの問題に付ては頃日
雨宮某の首唱に就き時事新報紙上にも辯妄する所あり
しが相場師輩の小範囲より耳を傾くるに足らず筑豊鐵
道にても雨宮の照會に對して同意せずとの回答を與へ
たる由浅聞きしがソハ唯雨宮の聯合直上論に加擔せざ
る迄のみにして筑豊自身否合併後の九州鐵道にては
多分運炭の直上けを断行するとならん抑も運賃の原理
に就ては學者實際家の議論紛々たる問題なれども今筑
鐵沿線の炭坑主は大抵出炭萬斤(六噸)に付拾圓以上
の純益を見ざるはなし天下實業の數多しと雖も此の如
きの巨利を博するもの何くにあるや况んや學術進歩の
今日に於ては山仕事決して危險なるにわらず専ら實業
なる實業にゐそあれ若し運賃は荷主の堪ふる限りを以
て極とするを原則とすれば此上一錢二錢の直上げも苦
かるまじきかなれども實際の引上げは五厘(即ち一噸
に付一哩二錢五厘となる)に過ぐべからず或は運賃賦
課の方法を全く新題向に取ることもある可きか
來客多し 炭山視察、製鐵所檢分等の爲め署中休を利
用して東京邊より來遊する官人紳士等頗る多し製鐵所
も追々事務の歩を進めつもあり夜涼に乘じ若松より對
岸を眺むるときは遙影日々多きを加ふるに至れり聞く
同所觀覧の上は上下合せて一萬人の所屬を要すべし果
して然らば製鐵沿岸の繁華非常なるべし

管の商品陳列館は、一
に松岡壽氏同館長
の出品を勧誘し一方
陳列終へ愈よ昨日
せり此日實業に關係
并に現況に就て辨明
て實業の發達、實業
新聞記者等は同館の
き休憩中新任の美浦
新陳列所にて開催され
るが、此の開催は、主として
の決心なれば諸君の
つ鑑賞者と多くせん
全く役所風を脱し場
きも嚴正なる官の調
ても是迄は顧を要し
今後は出品を申込み
は一同を陳列所に着
外國産、新着品、比較
許品のみ未だ鑑額せ
は順序証く陳列せら
間競争一切、新着品
磁器類は最も見事な
價とを附し鑑賞者に
出品人に紹介を置
なりと云へば内外外
邦來遊外人に取うて
らくは局長の話中にて
が爲めに一般鑑賞者
を生ぜしむるみと是
○慶應義塾の始
慶應義塾は例規に依
同日は土曜日翌十二
る」と云ふ

三橋ヤール商会へ一等玄米百四十五
九十七十番ボップ商會
各出来せり其他檜木
ヨユール商會へ玄米
貯穀の上譲する處わ
油過日來引續き
所十二番イリス商會
ソバーポイト商會へ
ヤール商会へ五百箱
其他内地稻蟲驅除用
今日は四疋六十錢位
牛莊豆粕既報の如
薄く加ふるに輸入は
現物は一圓八十錢
々望人ありて九月十
五錢迄に既に約定を